

1. 平成5年度総会

恒例により、大会委員会（島田俊秀教授）を議長として選出し、以下の報告および審議・決定がなされた。

<報告>

(1) 事業報告

- 1) 会員移動状況
- 2) 会費納入状況
- 3) 公開シンポジウム開催について
- 4) 機関誌発行について

(2) 第59回大会会計報告

開催校、白梅学園短期大学より報告された。

<審議>

(1) 平成4年度決算について

監査委員の馬場房子、田之内厚三両氏の監査を受けた決算書が事務局より提出され、承認された。

(2) 平成5年度予算案について

(3) 会費値上げについて

現行の、年額4,500円から、平成6年度より6,000円に値上げすることが審議、決定された。

(4) 応用心理士（仮称）資格認定について

(5) 平成7年度（第62回大会）開催校について

共立女子大学に決定（大会委員長 高嶋正士教授）。

(6) 運営委員および名誉会員の推薦について

1) 運営委員の推薦について

荻野七重、小野浩一、土屋明夫の3が推薦され、承認された。

2) 名誉会員の推薦について

肥田野正、斎藤幸一郎両委員には、なお現役として応用心理学会のためにご活躍戴きたいとの要望が会員のあいだに強く、名誉会員に推薦しないことを決定。他に、名誉会員の推薦無し。

(3) 第61回大会・第62回大会開催校挨拶

2. 一般活動報告・事務諸報告

(1) 『会員名簿』1993年版が出来上がり、会員および関係機関に送付した。

(2) 第60回大会（平成5年9月11日・12日）鹿児島大学において開催。盛会のうちに終了。

(3) 『応用心理学研究』第18号の印刷ができ、会員および関係機関に送付した。

(4) 平成5年度の公開シンポジウムの開催（平成6年1月29日、於：日本大学文理学部）。テーマ「居住環境とストレス」、企画・司会 高橋たまき（日本女子大学）、話題提供 小川信子（日本女子大学）、高橋誠（労働科学研究所）、本間道子（日本女子大学）、仁科エミ（文部省放送教育開発センター）

3. 第60回大会発表状況

個人発表 122 件、シンポジウム 5 件、公開講演 1 件、座談会 1 件。

4. 会員移動

新入会員 別掲

退会者（含：長期会費未納者）別掲

5. 寄贈文献 別掲

平成4年度決算報告

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
繰 越 金	1,239,379	1,239,379	第59回大会補助費	500,000	500,000
会 費	<u>3,394,000</u>	<u>3,326,000</u>	シンポジウム費	244,174	250,000
過 年 度 分	445,500	204,750	印 刷 費	<u>1,700,086</u>	<u>1,600,000</u>
	(4500 * 99)		機 関 誌	1,640,790	1,500,000
本 年 度 分	2,938,500	3,071,250	そ の 他	59,296	100,000
	(4500 * 653)		通 信 費	<u>228,133</u>	<u>250,000</u>
賛 助 会 費	10,000	50,000	機 関 誌	62,722	50,000
雑 収 入	122,076	50,000	そ の 他	165,411	200,000
			機関誌編集費	91,133	120,000
			名簿作成積立金	400,000	400,000
			ミニ通信費	51,274	150,000
			さいころじすと費	75,996	80,000
			諸学会連絡会費	7,000	7,000
			交 通 費	185,000	200,000
			事 務 局 費	428,265	450,000
			アルバイト費	201,538	200,000
			予 備 費	0	260,000
			次年度繰越金	642,856	148,379
合 計	4,755,455	4,615,379	合 計	4,755,455	4,615,379

監査委員 馬 場 房 子 ㊞

監査委員 田之内 厚 三 ㊞

平成5年度予算原案

収 入		支 出	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
繰越金	642,856	第60回大会補助費	500,000
会費	<u>3,827,750</u>	シンポジウム費	250,000
過年度分	213,750		
	(4500*950*0.05)	印刷費	<u>1,800,000</u>
		機関誌	1,700,000
本年度分	3,564,000	その他	100,000
	(4500*990*0.08)		
賛助会費	50,000	通信費	<u>373,000</u>
		機関誌	73,000
雑収入	50,000	会員名簿	250,000
		その他	50,000
		機関誌編集費	120,000
		名簿作成積立金	300,000
		ミニ通信費	70,000
		さいころじすと費	80,000
		諸学会間連絡会費	7,000
		交通費	200,000
		事務局費	300,000
		アルバイト費	432,000
		予備費	88,606
		次年度への繰越金	0
合 計	4,520,606	合 計	4,520,606

日本応用心理学会第59回大会決算報告

1992年 9 月 21 日・22 日
於：白梅学園短期大学

収 入			支 出	
摘 要		金 額	摘 要	金 額
大会参加費		2,095,500	印 刷 費	1,039,774
(内訳) 予約分	5,000×176	880,000	(内訳) 封筒印刷	102,021
非会員連名者	10,000×11	110,000	1号, 2号通信印刷	42,271
当日分			ポスター印刷	74,160
正会員	5,500×62	341,000	プログラム印刷	365,650
臨時会員(2日間)	6,000×10	60,000	論文集他印刷	390,473
臨時会員(1日)	3,500×77	269,500	その他(コピー代等)	65,199
学生会員	1,000×22	22,000		
同窓生会員	3,500×118	413,000	通 信 費	522,724
論文集代金		1,783,500	(内訳) 1号通信郵送料	54,994
(内訳) 予約分	5,000×204	1,020,000	2号通信郵送料	26,250
当日分以降	5,500×137	753,500	パンフレット, ポスター郵送料	53,010
法人扱い分	6,000×1	6,000	プログラム郵送料	208,010
写真掲載料		4,000	その他	180,460
懇親会費		437,500	交通費, 宿泊費	464,450
(内訳) 予約分	5,000×49	245,000	(内訳) 懇親会用バス1台	25,750
当日分	5,500×35	192,500	シンポジスト, 講師 交通費	368,700
広告料, 展示料		645,000	シンポジスト, 講師 宿泊費	70,000
賛助金, 協賛金		1,140,274	人 件 費	942,090
学会本部より補助金		500,000	(内訳) アルバイト当日学生分	615,000
			その他	327,090
			文具, 消耗品	70,615
			懇親会費	1,077,215
			会場備品, レンタル料	237,017
			学会事務センター手数料	495,405
			シンポジスト, 講師謝礼	1,130,000
			準備委員会議会合費	82,460
			接 待 費	451,744
			その他(クリーニング, ポスター提示)	78,280
			返金分(学会事務センター過剰入金分)	10,000
合 計		6,601,774	合 計	6,601,774

1993年度第4回(1993年7月)

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時: 1993年7月24日(金) 18:00~20:00

場 所: 日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F
第3会議室出席者: 島田, 井上, 大久保, 大塚, 大村, 岡村,
恩田, 垣本, 斉藤, 高嶋, 長塚, 中村, 長
谷川, 林, 平野, 宮本
事務局(高橋, 久東, 中居)

報告事項:

1. 第60回大会準備状況報告(島田会長)

- ①口頭発表件数は127件, 参加者数は約200名となった。
- ②臨床部門は, 取りやめにした。
- ③シンポジウムは, 5件, 開催されることになった。
- ④第2号通信を発送準備中である。
- ⑤プログラムの印刷を終了し, 次週早々に発送の予定である。

2. 編集委員会報告(村井代理 大塚)

機関誌18号の投稿件数は9件で、内採用6件、不採用1件、取り下げ2件であった。

投稿論文以外の内容として、シンポジウムの記録は、中村常任運営委員が担当し、招待論文(“中国の旅行心理学”は、翻訳中である。)初校を著者校正中である。

審議事項：

1. 平成5年度予算案の検討(別紙資料)(高橋)

①機関誌が学術刊行物として認可されているので、通信費は昨年度より減額。ミニ通信費を0ではなく、70,000円計上する。

②名簿積立金に関して、名簿の更新は、4年ごとでは間隔があき過ぎで、3年ごとにしてはどうかとの意見が出され、そうなると、後経費がかかる。来年度会費を値上げすれば、やや増額可能であるかも知れない。また名簿積立金は別枠にしたらどうかとの意見も出された。

③交通費について、地方の委員にはかなりの負担で、予算が少額なので、今後検討していただきたいとの提案があった。

2. 認定「応用心理士」(仮称)の内容および条文の検討(島田会長)

法律専門家とも相談した規則案文の修正部分について、8月中頃までに全運営委員(本委員会出席の委員を除く)に送付し、意見をまとめて、総会に提案、承認を受ける意向であることが説明された。

総会で、設置承認、規則案承認の2段階の提案にすべきであるとの意見が出されたが、アンケートで、すでに意見がまとめているので規則案承認の形で進める。

申請書類の書式は、浜崎委員に依頼して、作成中である。また、有効期限や更新、認定書の書式などについては、細則として作成する。

3. 応用心理学会 学会賞の設定について(島田会長)

検討委員会設置案(別紙)が出されたが、学会費の必要性から本委員会で継続審議されることになった。

4. 新入会員審査について

4名の新入会員が、審査の上承認された。

5. その他

①学会費値上げ案について(高橋)

諸物価値上げのおり、繰越金がマイナスになる(これを、総会で会費値上げの事由にする)ので、事務局の負担が大きい。

6,000円(現行4,500円)の案で、1,2年の内に上げるということでどうか。編集委員より機関誌を年2回にしたい意向が伝えられたが、来年度は、予算の関係で無理であろう。文部省の学術刊行物補助金、費用の安く済む印刷所などを検討して、対策を立てたい。

また、値上げした場合の予算状況の予想の説明が、必要であるとの意見が、あった。

②次期大会(第61回大会)について(岡村)

会長、準備委員長は、城西大学駒崎委員の予定であったが、ご病気のため、就任が難しくなった。しかし、準備は大学サイドで進めている。

案として、開催校を他大学に移す、開催校をそのままにして、会長の代行を立てるなどが出され、議論の末、会長は駒崎委員、副会長は高嶋委員のまま変わらず、岡村委員が会長を代行することとなった。

③今年度公開シンポジウムについて(高橋)

10月の本運営委員会で、早急にテーマを決定したい。内容としては、社会問題に適したものがよいのではないかな。

開催は、やや遅く1月末になる可能性があり、また、ミニ通信で通知する必要がある。

7. 次回常任運営委員会開催日

10月15日(金)

以上

1993年度第5回(1993年10月)

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日時：1993年7月24日(金) 18:00~20:00

場所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F 第3会議室

出席者：島田、大久保、岡村、垣本、神作、越河、齊藤、高嶋、長谷川、林、肥田野、平野、宮本

事務局(高橋、久東、中居)

報告事項：

1. 第60回大会諸報告(別紙資料)(島田会長)

2. 第61回大会準備状況報告(別紙資料)(岡村)

今までの大会より、公開シンポジウムなどの公

開部分を多くしたらどうかとの意見が出された。

また、会員総会を、懇親会の前に持ってきてはどうかという案が出された。

パネルディスカッションは、各先生方の協力を得て行う。

公開シンポジウムは、血液型と性格に関するテーマで、準備中である。

公開講演は、題名は未定。

全体として、健康に関連したものを取り上げる大会とし、論文集は、大会後に発行する。

審議事項：

1. 学術会議心研委員の選出について（高橋）

推薦人を大村委員に依頼する。

2. 公開シンポジウムについて（高橋）

テーマは、“ストレスと居住空間”とし、快適性と自然環境、職場と緑、アメニティ、人工の緑と自然の緑、過疎と過密などとストレスとの関連についてのものが興味深い。

開催予定は、1月22日（土）か29日（土）で、場所は、日本女子大学目白キャンパスを予定している。

3. 認定「応用心理士」関係業務について（島田会長）

会則、手続きのための書類（履歴書、職務内容証明など）、ガイドなどを整え、会員へ主旨を徹底することが必要である。

準備委員会は解散し、実行委員会が発足してから、細かい規則、書類などを作成する。

実行委員会のメンバーは、準備委員の内、宮本、中村、駒崎の3委員が抜け、大村、島田、岡村、高橋の4委員は留任。欠けた領域を勘案し、新メンバーについては、島田、高橋両委員が案を作り検討する。

来年度4月より、是非発足させたい。

4. 学会への入会期日と大会での発表資格について
日本心理学会、日本教育心理学会のような厳しい制限（3月31日までに会員であること、など）にせず、本学会は、5月末のように、制限を弛めてはどうか？

第61回大会は、5月末で良い。

大会の時期によるが、一応、5月末というように制限を設け、その他は運営委員会で諮るというように、柔軟性を持たせてはどうかとの意見が出

された。

また、斉藤委員より、学会大会ご案内の通信において、発表者の資格の項に、正会員入会の期限が明記されているものの、“…大会当日、正会員であること…”まの記述があつて誤解を招くので、検討すべきであるとの申し入れがあった。

5. 新入会員審査について

9名の新入会員が、審査の上承認された。

6. その他

①心理学諸学会連絡会より、郵便料金が値上げするので、学術刊行物は値上げしないよう陳情したいとの申し入れがあったが、本学会として賛成する。

②連絡会関連

日本心理学会の合同シンポジウムに、本学会は、参加しているかとの質問が岡村委員より出され、参加する場合のテーマも含め、次回連絡会（12月）で検討する。

7. 次回常任運営委員会開催日

11月19日（金）

以上

1993年度第6回（1993年11月）

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1993年11月19日（金） 18：00～19：45

場 所：日本女子大学 目白キャンパス図書館5F 会議室

出席者：大塚、大村、岡村、斎藤、肥田野、平野
事務局（高橋、中居、渡辺）

報告事項：

1. 事務局より報告（高橋）

①機関誌833部を本日発送済み

②ミニ通信は12月半ば発送予定である。

内容は第60回大会の報告、公開シンポジウムのお知らせを予定している。

平成5年度会費未納の方に振込用紙を同封する。

2. 第61回大会準備に関して（岡村）

準備委員会をまだ開いていないので、特に報告する事柄はない。次回報告したい。

3. 心研連の世話人について

この学会から大村委員を心研連の世話人に推薦したい。

審議事項：

1. 公開シンポジウムについて

テーマ：＜居住環境とストレス＞

司 会：高橋たまき

(日本女子大学人間社会学部)

話題提供者：

小川 信子 (日本女子大学家政学部)

「子どもの生活と居住環境」

高橋 誠 (労働科学研究所)

「職場の物理環境と疲労」

本間 道子 (日本女子大学人間社会学部) 「都市環境とストレス」

仁科 エミ (文部省放送教育開発センター) 「工業化社会における情報環境と生体反応」

日 時：平成6年1月29日(土)午後2時～5時

場 所：日本女子大学が期末試験期間中の為使用出来なくなり、大村委員が日本大学で開けるよう検討中である。

2. 新入会員審査について

2名の新入会員が、審査の上承認された。

3. 次回常任運営委員会開催日について

1月29日(土)5時30分～(シンポジウムの後)

岡村委員は入試の為欠席となり、高嶋副会長に司会をお願いする。

4. その他

①郵便料金値上げ反対の陳情について

この陳情に、応心も同調するとしても方法が分からない。従って働きかけがあったら動くことにする。

②公開シンポジウムの委員会を作ってはどうか。(高橋)

・4月から、秋に向けて早めにテーマを決め最適の人に依頼する。

・大会時、運営委員に意見を聞いたりアンケートをとるなどして、次年度のシンポジウムに利用していく。

・ミニ通信に公開シンポジウムへの提案をお願いしてはどうか。

また、応用心理士の発足の件を載せてみてはどうか。

以上

1993年度第7回(1994年1月)

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1994年1月29日(土) 17:00～18:30

場 所：日本大学文理学部 本館5F心理研究室16

出席者：大久保、大村、恩田、垣本、越河、斉藤、

高嶋、林、平野、村井

事務局(高橋、久東、渡辺、莊村)

報告事項：

1. 公開シンポジウム報告

スライドの資料が記録には入らない。今回は、何とか、話の分かるように入れてほしい。(大村)

2. 編集委員会報告(村井)

①現在の所3編の投稿がある。

②その内1編は中国語論文である。この中国語論文については取扱いを審議いただきたい。筆者は、上海の広東師範大学の心理学教授 馬氏。題名は「中国の漢字の教育について」。内容は、現代の西洋心理学というものを中国のいろいろな問題にあてはめた場合、どう生かされるか。漢字教育を効果的にするにはどうやっていけばいいか、というもの。

(審議結果)依頼原稿のかたちにして、原稿料なしで掲載とする。

③印刷所の検討について、意見がでていたが。(高橋)

見積りを取って、編集委員会で相談の上報告する。(村井)

3. その他(高橋)

①第61回大会案について。別紙、主催校案を回覧。

②「顔のシンポジウム」より協賛にしてほしいと依頼があり、承諾した。

場所：早稲田大学・国際会議場・井深ホール

主催：シンポジウム「顔」実行委員会

共催：電子通信学会

他の協賛団体：日本心理学会、日本映像学会、顔顔バイオメカニクス学会

③学術会議の講演会についての案内。2月7日。

テーマ：「文化と学術について」

審議事項：

1. 学術会議会員・推薦人予備者の選出について(高橋)

(推薦人については、既に大村委員にお願いしてある。)

予備者として村井委員を選出。

2. 常任運営委員の辞退について（大村）

- ①病氣療養中の駒崎委員より、常任運営委員を辞退したい、また大会準備委員長も辞退したいと申し出があった。

岡村委員の折衝により、大会準備委員長は渡辺経済学部長、副準備委員長に岡村委員となり、岡村委員が実質の運営をしていくと決まった。岡村委員は本日は大学入学試験のため欠席である、次回に詳しく報告。（大村）

- ②なお、上記の決定によって、岡村委員の今期会長就任が決まった。

- ③欠員補充をするか、について
補充なしと決定。

3. 新入会員審査

5名の新入会員が、審査の上承認された。

4. 次回常任運営委員会開催日

3月12日（土）

5. 次年度公開シンポジウムについて

6. 次々期大会（第63回）主催校について

関西地区、あるいは広島という案が出された。

1993年度第8回（1994年3月）

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1994年3月12日（土） 14：00～16：00

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F

第3会議室

出席者：岡村、大塚、大村、垣本、神作、島田、

平野

事務局（高橋、渡辺、荘村）

報告事項：

1. 事務局報告（高橋）

- ①常任運営委員会議事録について

第4回、第5回、第6回分を本日配布。第7回分以降は4月に配布予定。

訂正（第5回分 P. 1, 第3行目）

日時：1993年7月24日

一（訂正）日時：1993年10月15日

- ②藤本喜八氏が亡くなられ、当学会として供花。

前例はどうか。また今後どうするか。

その都度、改めて考慮させてもらうことにする。

今後、訃報に接した場合、事務局にも連絡を

お願いする。

2. 第61回大会準備状況（別紙資料－第61回大会第1号通信）（岡村）

追加説明

Ⅲ－2－② 連絡発表費については、いくつ連名発表に参加しても一回分でよい。

Ⅳ－1 「ホスピス」のシンポジウムは大村委員が中心。

Ⅳ－2 パネルディスカッション「女性学と母性」は城西大学 水田氏が中心。

「地域産業と心理学」は中小企業の採用、教育を中心テーマにディスカッション。

「血液型性格学」は大村委員が中心。

3. 心理学諸学会間連絡会より（別紙 議事録）（岡村）

4. 機関誌編集委員会より（大村委員欠席のため）なし

5. その他

第60回大会発表論文集発送。（神作）

審議事項：

1. 認定「応用心理士」関係の運用について（別紙 資格申請の手引き）（神作）

手引き書の作成と以後の運用の仕方は島田前会長と岡村会長とで検討。

発表は、第61回大会にあわせて準備。

2. 平成6年度 公開シンポジウムについて

運営委員に、何年度分を頼めるか呼びかけをすればよい。（平野）

呼びかけは、事務局に一任。

3. 第63回・第64回・第65回大会主催校について

少しずつあたっていくという事で、次回審議事項へ。

4. 新入会員審査について

3名の新入会員が、審査の上承認された。

5. 次回常任運営委員会開催日

4月22日

6. その他

なし

1994年度第1回（1994年4月）

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1994年4月22日（土） 18：00～20：00

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F

第3会議室

出席者：岡村，大久保，大島，大塚，大村，恩田，
 神作，越河，斉藤，高嶋，林，肥田野，平
 野，村井

事務局（高橋，久東，渡辺，荘村）

報告事項：

1. 第61回大会準備状況について（岡村）

①発表申し込みが，現時点で8件のみと少ないため，各委員からも積極的に参加等を勧めていただきたい。

②シンポジウムのパネルディスカッションの準備状況

今回，産業関係の分野で，テーマは「地域産業と心理学」（仮題）とし，城西大学経済学部長（本大会準備委員長）の渡辺好章氏に依頼する。渡辺氏はマーケティングが専門であるため，地方自治体及び地方企業と心理学に関する内容で交渉し，現在，返事待ちの状況である。

2. 心理学諸学会間連絡会より（岡村）

これについては，「学会の動向」の資料を参照いただきたい。

3. 機関誌編集委員会より（村井）

次号（第19号）機関誌について，現在，9編投稿があり，査読中である。

「20号記念誌から年2回の発行にしたらどうか」，また，「大学によっては本学会機関誌掲載論文が業績審査の対象にならないところがあるようだが，査読をしているのだから評価の対象にするようPRして欲しい」などの意見が交わされた。

4. その他

特になし

審議事項：

1. 認定「応用心理士」関係の運用について

①まず自由な形で次の意見が出された。

- ・ある大学の部報に日本心理学会「認定心理士」募集を掲載したところ，卒業生から問い合わせが殺到した例もあるので，PRの方法を考慮すべきである。
- ・「学会員であること」を条件にすると，退会等の場合，追跡が大変である。「本学会に5年以上在籍のこと」という条件を加えたらどうか。
- ・認定のための履修科目の範囲を決定するのも

困難である。

②さらに，大村委員より，申請方法，申請様式の案が提示され，次のような多くの検討課題と問題点が指摘された。

- ・業績表（職場における心理関係の業績を記載するもの：様式3のB）の記載が申請者には難しいのではないかな。
- ・申請のための手引きが必要なのではないかな，また，認定規則案第4条（申請要件）の写しを手引きに載せたらどうか，の提案があるが，様式等の詳細を決定した上で作成する。
- ・現在の資格の範囲（例えば，看護婦はどうか，等）を明確にして，手引きに載せるべきである。
- ・認定書の更新はどうするか。例えば，「退会した」等の状況を把握するのが困難で，事務処理も煩雑になる。
- ・アルバイト等を依頼して事務処理を事務局の業務と分けた方がよく，新たに認定委員会及び事務組織を作るべきである。
- ・認定の有効期限（例えば，5ヵ年），発行日等も手引きに明記した方がよいという意見と，「本会の会員であること」と明記しておき，退会したら自動的に期限が切れるようにしたら良いという意見と，両方が出された。
- ・再発行はどのようにするか。
- ・細則で定め，名誉会員には無条件で発行したらどうか。

2. 平成6年度公開シンポジウムについて

- ・平野委員より，全国の60～70名の運営委員に問い合わせ，地方で開催したらどうかとの意見が出され，高橋事務局長より，一度，問い合わせを実施してみて，早ければ，次回の本委員会では結果を報告するとの回答があった。
- ・前回のシンポジウムのテーマとして「コンピュータと人間生活」（パソコン等の普及が日常生活にどのように影響するか）が候補に挙がっていた。また，今年度，国際家族年に当たるので，家族に関して取り上げたらどうか。ただし，家族に関しては，日本心理学会でフィードバック的なものを取り上げる。あるいは，雲仙，奥尻等の災害に絡め，「災害時の心理」のテーマで，心理学が災害とどう

聞われるかを取り上げるのも興味深いのではないか。

以上のような提案が出されたが、地方での開催案が出されてから検討することにした。

3. 第63回以降の大会主催校について

できれば地方で開催したいので、公開シンポジウムに関する各運営委員へのアンケート（審議事項2.で検討済み）で一緒に公募してはどうかとの意見が出され、事務局側でアンケートの案を作り、実施する方向となった。

4. 新入会員審査

16名の新入会員が、審査の上承認された。

5. 次回常任運営委員会開催日

5月27日（金）

1994年度第2回（1994年5月）

日本応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1994年5月27日（金） 18：10～19：10

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F第3会議室

出席者：岡村，大久保，大塚，大村，垣本，神作，高嶋，長谷川，肥田野，平野，村井，越河，林

事務局（高橋，渡辺，荘村）

報告事項：

1. 第61回大会準備状況について（別紙）（岡村）

①研究発表申込状況－28件（大会参加申込ハガキ返送73件中）。少ないので心配している。委員の方々もおすすめて頂きたい。可能スペースは100を用意してある。

②大会内容－講演について、およびシンポジスト・パネリストの説明

2. 機関誌編集委員会より（村井）

①（編集進行状況）12編論文投稿があった。そのうち3編は資料。現在、査読をお願いしている最中で、第一段階の査読を6月20日迄にお願いしてある。全作業を7月10日までに終える予定でいる。

他に、こちらからの依頼原稿がある。中村昭之氏に「オーストラリア心理学の紹介」を依頼しており、6月末までに原稿が届く予定である。

②（発行回数、及び表紙について）前にも話したが、編集委員会が発足して4年であるが、投稿

数は、最初の年が5編、以下6編、8編、12編、と増えている。そろそろ、年2回の発行を考えてもいいのではないかと。

また、表紙を変えてもいいのではないかとという事もあるので、今年度検討して、20号以降変えるなら変えたい。

3. 心理学諸学会間連絡会より（岡村）

6月22日に今年度第1回が開かれる予定。

4. その他

なし

審議事項：

1. 認定「応用心理士」関係の運用について（大村）

作成中である。準備が出来たら、次回常任運営委員会で検討できるように、委員各位に郵送する。

2. 平成6年度 公開シンポジウムについて（高橋）

前回の常任運営委員会で決またとおり、運営委員全員にアンケート（別紙）を郵送して、次の結果を得た。（結果－別紙）。発送－59通。返送－14通。

（審議の結果）越河氏に準備をお願いすると決定。テーマは、「ヒューマン・ケア・ワークの質的向上をめぐる－看護・介護・保育の諸問題－」。場所は未定。次期は11月中旬の土曜日の午後を予定。

3. 新入会員審査について

6名の新入会員が、審査の上承認された。

4. 次回常任運営委員会開催日

6月24日（金）

5. その他（高橋）

①平成5年度決算、及び6年度予算案を次期常任運営委員会に出す予定である。

②今年は運営委員改選の年である。そのため9月の大会までにその準備がいる。

③【入会のしおり】を新しくした（別紙）。手作りである。何か訂正があったら、次回までにご指摘を願いたい。

④前年度第7回、8回常任運営委員会議事録配布。（別紙）

1994年度第3回（1994年6月）

応用心理学会常任運営委員会議事録

日 時：1994年6月24日（金） 18：00～20：00

場 所：日本女子大学 目白キャンパス泉山館2F

第3会議室

出席者：岡村，井上，大久保，大村，恩田，垣本，
齊藤，長谷川，林，正田，平野
事務局（高橋，渡辺，莊村）

報告事項：

1. 大会準備状況

現在時点で口頭発表89件，ポスター発表24件である。

2. 諸学会連絡会

新規登録学会2件（日本性格心理学会，日本感情心理学会）いずれも入会が承認された。なお，登録学会総数は23学会となった。

サイコロジスト31号は現在編集，9月中旬頃に発行される。

その他，他の学会の動向等が報告された。

3. 機関誌編集委員会

現在数々の論文を審査中である。その他には特に無し。

4. その他

サイコロジスト32号の編集方針について。

心理ワールドをどうするべきかについて（各種の意見を集めては，各種学会間の関係は今後どう在るべきか等々について話題となった）。

審議事項：

1. 認定「応用心理士」の件について

認定基準の草案が検討された。

用語はもっと柔らかい方が良いのではないか。全体の案がまとまった段階でないとチェックがやりにくい，等々の意見が出された。

結論としては，検討委員会で再度検討し9月の運営委員会で原案の審議が出来るよう準備を図ることとなった。

2. 決算・予算報告について

決算書の記載事項のうち，前年度赤字分の表現についてはマイナス繰り越しという扱いとすることが了承された。

予算については，草案段階での検討を行ったが，最終的には次回で検討することとなった。なお，収入増を図るため，学会発表時の通信等を利用して未納会費の回収に資してはどうかという意見などが出された。

3. 名誉会員の推薦について

7月中に候補者リストを作成する必要がある

（9月の総会時に間に合わせるには）ので，次回に推薦者を出して検討することとなった。

なお，今回の運営委員会で，候補者として齊藤，肥田野両先生が推薦された。

4. その他

運営委員の改選期に当たるのでその準備を進める。次回の常任運営委員会で運営委員が決められるように。

5. 入会審査

6件を承認し，1件については申請書不備につきペンディングとした。

6. 次回常任運営委員会開催

7月26日（火）

以上

会員異動

新入会員（1993.7月～1994.3月）

（氏名，①現住所，②所属）

原田 千鶴

②日本赤十字武蔵野女子短大 講師

久保 孝之

②埼玉県警察本部 科学捜査研究所

高橋 敷

②相愛大学 人文学部

松岡 和生

②岩手大学 人文社会科学部 助教授

田中 寛二

②琉球大学 法文学部 講師

小代 禎彦

②東陶機器(株) 研究員

吉田富士雄

②筑波大学 心理学系 助教授

鈴木 美香

②日本大学文理学部心理学研究室

澤田 幸枝

②筑波大学 環境科学研究科修士課程

中山 周重

②鹿児島県警察本部 刑事部鑑識課科学捜査研究室

新小田春美

②産業医科大学 医療技術短期大学 講師

深田 高一

②産業医科大学 医療技術短期大学 教授

畠山 彰文

②北海道大学大学院地球環境科学研究科修士課程

土屋 隆裕

②統計数理研究所 助手

大坪 幸實

②阪本病院 看護婦

鈴木サチ子

②

本田ユキ子

②(有)本田縫製

菊地 藤吉

②ホノルル大学オリエント分校 校長

本多 敏雄

②(株)東京工学

谷島 弘仁

②筑波大学大学院心理学研究科博士課程

広田 信一

②筑波大学大学院心理学研究科博士課程

川島 一夫

②信州大学 教育学部 助教授

佐々木真哉

②東京大学大学院経済学研究科第2種博士課程

退会者（会費長期未納者を含む）

近石えり子, 浜田 靖, 今村 義正, 稲川 亜子,
石毛 長雄, 石川 透, 松本 博基, 水口 礼治,
向 摯, 村上巳弥子, 村山 秀雄, 長崎 拓土,
西岡 昭, 帯谷 賢道, 大道 安廣, 岡部 健,
岡本 昌, 酒川靖一郎, 佐藤 夏生, 渋谷伊津子,
新柄 明子, 東海林義信, 鈴木 光枝, 田淵 穂高,
高木 晴夫, 竹原 昭典, 辰見 敏夫, 徳田 克己,
鶴 光代, 内山 道明, 八木信一郎

死 去

藤本 喜八（名誉会員）, 林 銑蔵（名誉会員）,
乾 孝（名誉会員）

寄贈文献

学会事務局に以下の雑誌類・著書（平成6年7月
まで）が寄贈されていますのでご利用下さい。

一定期刊行物一

母子保健情報（恩賜財団母子愛育会）1993 第27
号, 第28号, 1994 第29号

Coder News Letter（発達科学教育センター）1993
Vol. 27, 1994 Vol. 30, 31

電気通信普及財団研究調査報告書（電気通信普及
財団）1994 NO.8

電話相談学研究（全国電話相談研究会）1993 Vol.
5

発達研究：発達科学研究センター紀要（発達科学
研究教育センター）1993 VOL.9

発達障害研究所年報（愛知県心身障害者コロニー
発達障害研究所）1992 第21号, 1993 第22号

Hiroshima Forum for Psychoiogy（Hiroshima
University）1993 VOL. 15

放送研究と調査（NHK放送文化研究所）1993 4,
5, 6, 7, 8, 11, 12, 1994 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

International Association of Traffic and
Safety Sciences（国際交通安全学会）1993 Vol.19
Nos. 1, 2, 4 1994 Vol. 20 No. 1

上智大学心理学年報（上智大学心理学科）1993
第17巻 1994 第18巻

- 児童教育研究（安田女子大学児童教育学会）1994 第3号
- 人文研究（神奈川大学人文学会）1993 Nos. 115, 116, 117, 118, 119, 1994 NO. 120
- 人文学研究所報（神奈川大学人文学研究所）1993 No. 26, 19947 No. 27
- 人事試験研究（日本人事試験研究センター）1993 Nos. 147, 148, 149, 150, 1994 NO. 151
- 科学警察研究所報告－防犯少年編－（科学警察研究所）1992 33巻2号, 1993 34巻1号, 2号
- 科学警察研究所報告－交通編－（科学警察研究所）1993 第34巻1号, 2号, 1994 第35巻1号
- 関係学研究（関係学研究編集委員会）1992 第20巻第1号, 1993 第21巻第1号
- 研究紀要（鹿児島女子大学）1993 第14巻第1号, 第15巻第13号, 1994 第15巻第2号
- 研究紀要（国立身体障害者リハビリテーションセンター）1992 第13号, 1993 第14号
- 慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要（慶應義塾大学大学院社会学研究科）1993 第36号, 1993 第37号, 第38号
- 化粧文化（ポーラ文化研究所）1993 Nos. 28, 29, 1994 No. 30
- 基礎心理学研究（日本基礎心理学会）1994 第12巻第2号
- こども家庭福祉情報（恩賜財団母子愛育会日本総合愛育研究所）1993 Vols. 6, 7, 1994 Vol. 8
- 明星大学心理年報（明星大学心理学研究室）1993 第11号, 1994 第12号
- 名古屋大学教育学部紀要・教育学科（名古屋大学教育学部）1992 第39巻第2号, 1993 第40巻第1号, 第2号
- 名古屋大学教育学部紀要・教育心理学科（名古屋大学教育学部）1993 第40巻
- 人間生活工学研究総覧－研究者研究機関等一覧－（人間生活工学研究センター）1994 第1巻, 第2巻, 第3巻
- 応用社会学研究（東京国際大学大学院社会学研究科）1993 第3号
- 産業安全研究所年報（労働省産業安全研究所）1992年
- 産業安全研究所特別研究報告（労働省産業安全研究所）1993 No. 13
- 産業安全研究所技術指針（労働産業安全研究所）1994年
- 産業・組織心理学研究（産業・組織心理学会）1993 第7巻
- 世界の日本語教育（国際交流基金日本語国際センター）1994 第1号, 第4号
- 指導と評価（日本教育評価研究会）1993 Vol. 39 Nos. 4, 5, 6, 7, 8, 10, 11, 12, 1994 Vol. 40 Nos. 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
- システム科学研究所紀要（早稲田大学システム科学研究所）1993 No. 24, 1994 No. 25
- スポーツ心理研究（日本スポーツ心理学会）1993 第20巻第1号
- 帝京大学文学部紀要・心理学（帝京大学文学部心理学科）1993 第2号
- テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査・全国結果表（NHK世論調査部）1993 6月, 11月
- テレコム・コロンブス賞論文集－社会科学部門－（電気通信財団）1994 No. 2
- テレコム社会科学賞入賞論文集（電気通信普及財団）1994 No. 3
- 東海大学紀要（東海大学教育研究所）1993 第1号
- 東京大学教育学部紀要（東京大学教育学部）1992 第32巻, 1993 第33巻
- 東京学芸大学教育学部紀要（東京学芸大学紀要出版委員会）1993 第43集 総索引, 1994 第44集 総索引, 第1部門教育科学, 1994 第45集 第1部門教育科学
- 筑波大学心理学研究（筑波大学心理学系）1993 第15号, 1994 第16号
- 早稲田心理学年報（早稲田大学文学部心理学系）1994 Vol. 26
- 山梨大学教育学部紀要（山梨大学教育学部）1993 第7号
- 山梨大学教育学研究報告（山梨大学人文社会科学系）1993 第43号
- 「全国保健・医療・福祉心理職能協会」設立大会記録集（全国保健・医療・福祉心理職能協会）1993年
- －図書－
- Bureaucracy and Well-being Universita' Degli Studi di (Amerino) 1994

Panetics Trilogy Vols. 1, 2, 3, Less Suffering
for Everybody, Panetics and Dukkha, Seeds of
Reflection (The International Society for

Panetics) 1994

社会主義者の心理学 乾 孝著 新読書社 1993
